

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.10.31 時点)

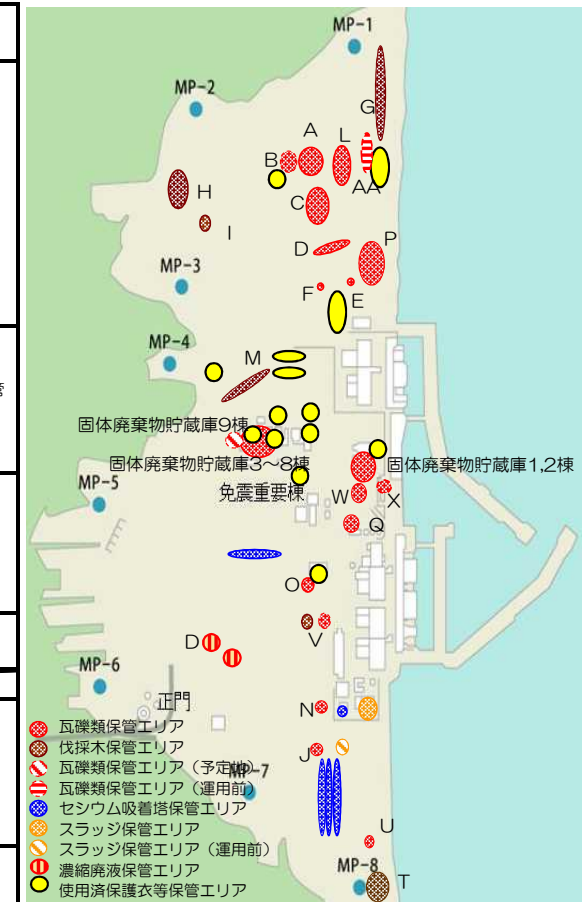
分類	保管場所	保管方法	エリア境界空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比*1 (2017.10.26)	変動*2 理由	エリア占有率	保管量*3 / 保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	2,800 m ³	0 m ³	—	85%	161800 / 214300 (76%) ・フランジタンク解体片 エリアP1にて一時保管中。(2015年6月15日～) 2017年10月末時点で532基(コンテナ)保管。
		C	屋外集積	0.01未満	57,200 m ³	-600 m ³	①②	90%	
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m ³	0 m ³	—	85%	
		J	屋外集積	0.01	4,300 m ³	0 m ³	—	53%	
		N	屋外集積	0.01未満	4,500 m ³	0 m ³	—	45%	
		O	屋外集積	0.01未満	37,300 m ³	+2,700 m ³	②③	73%	
		P1	屋外集積	0.01	47,300 m ³	+300 m ³	③	74%	
	U	屋外集積	0.01未満	0 m ³	0 m ³	—	0%		
	V	屋外集積	0.01	2,100 m ³	微増	—	35%		
	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m ³	0 m ³	—	58%	26200 / 71000 (37%) ・エリアWは、車両解体(プレス等)及びエリア内配置整理により保管量減。
E1		シート養生	0.03	12,900 m ³	-100 m ³	④⑤	81%		
P2		シート養生	0.01	5,500 m ³	0 m ³	—	62%		
W		シート養生	0.05	1,900 m ³	-600 m ³	②	6%		
覆土式一時保管施設、仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	21800 / 27700 (78%) ・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。	
	A	仮設保管設備	0.25	3,300 m ³	+300 m ³	③⑦	47%		
	E2	容器*4	0.02	300 m ³	0 m ³	—	19%		
	F1	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%		
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器*4	0.02	9,100 m ³	+100 m ³	③⑨	76%	9100 / 12000 (76%) ・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。	
									Q
合計(カレキ)				218,800 m ³	+2,600 m ³	—	67%		
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,100 m ³	0 m ³	—	63%	96400 / 144500 (67%)
		I	屋外集積	-	0 m ³	0 m ³	—	0%	
		H	屋外集積	0.01未満	31,700 m ³	0 m ³	—	74%	
		M	屋外集積	0.01未満	39,500 m ³	0 m ³	—	88%	
		V	屋外集積	0.01	100 m ³	0 m ³	—	1%	
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m ³	0 m ³	—	88%	37300 / 41600 (90%)
T		伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94%		
合計(伐採木)				133,700 m ³	0 m ³	—	72%		
保護衣	屋外集積	容器	0.04	63,500 m ³	+700 m ³	⑩⑪	89%	63500 / 71200 (89%) ・使用済保護衣等焼却量 2607t (2017年10月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 536本 (2017年10月末累積)	
									合計(使用済保護衣等)
仮設	瓦礫類	U(仮設分)	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	700 / 700 (100%) ・タンク設置スペース確保に伴い、エリアUより持込み。	
									合計(仮設運用エリア)

※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※2 主な変動理由: ①エリア整理 ②車両解体工事 ③1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ④瓦礫を一時保管エリアXに移動 ⑤タンク設置工事 ⑥一時保管エリアE1から瓦礫の受入
 ⑦一時保管エリアQから瓦礫の受入 ⑧瓦礫を一時保管エリアAに移動 ⑨水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の保管 ⑩焼却運転 ⑪使用済保護衣等の受入

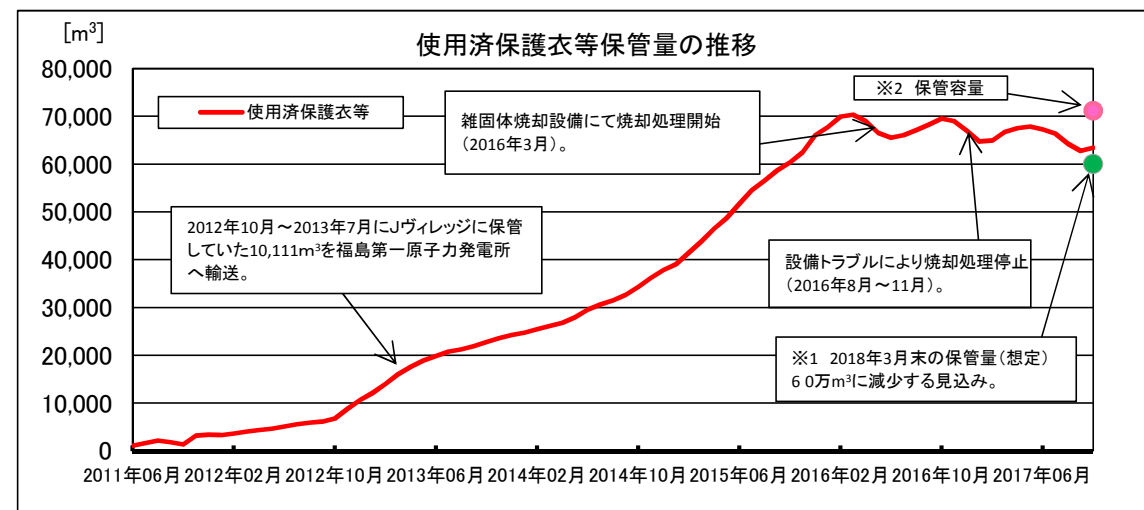
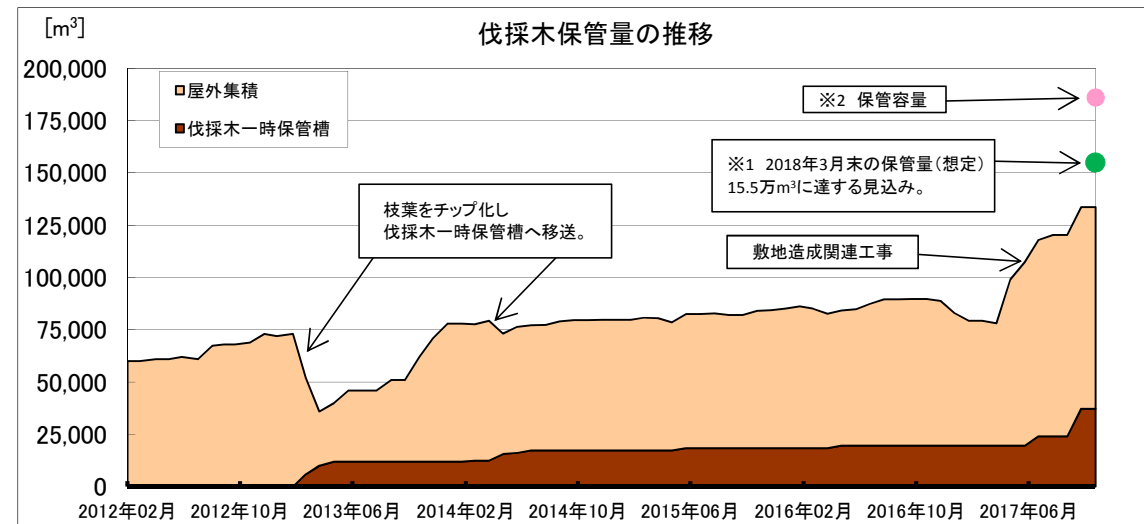
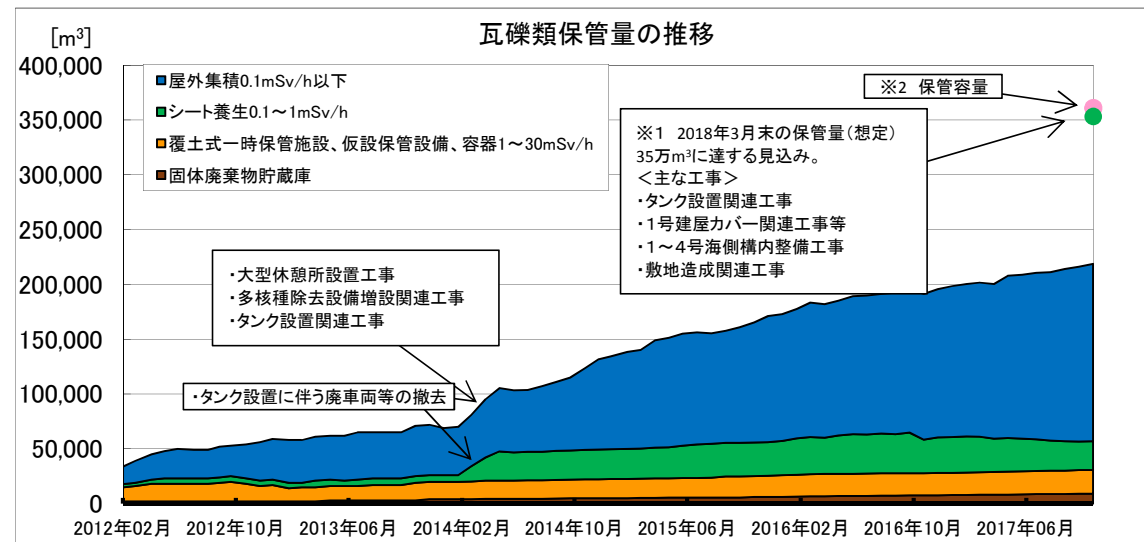
※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2017.11.2時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2017.10.26)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	759 本	0 本	3819 / 6368 (60%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	190 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	1,446 基	0 基		
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	73 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	9 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	195 本	+1 本		
廃スラッジ貯蔵施設	廃スラッジ		597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。
		濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,364 m ³	-11 m ³	9364 / 10700 (88%)



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.10.31 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2017年3月1日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、実施計画(2017年3月1日認可)の保管容量の運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2017.11.2時点)

